

キャビちゃんのちよつといひ話 Vol.1

H15.5.1発行
作成：スタッフ一同
監修・発行：かだ動物クリニック
tel 0944-56-7100
fax 0944-56-7107



当院の受付嬢たち

私達が笑顔でお出迎えます！

ときどき(?)疲れてお昼寝してるかもかもしれませんが許してね♡

大きな「キャビア」はフラットコートドレトリバーという種類で、ゴールデンレトリバーと同じような動きをしていた犬種です。とても優しい犬です。他の小さいコ達はミニチュアダックスフンドのワイヤーヘアという種類で、テリアのような眉毛とヒゲが特徴の犬種です。「おいこちゃん」はよく「むらやまさん」と呼ばれています。

なんとか、記念すべきニュースレターVol.1を皆様のお手もとにお届けすることが出来ました。スタッフそれぞれが飼主様に役立つ情報を…と日常業務の合間をぬってまとめました。もし、おわかりにならない内容がございましたら、ご遠慮なくお尋ねください。また、今後お知りになりたい事がございましたらリクエストしてくださると私達も助かります。

“春”

この時期の病院は大忙し!!(待ち時間も長くなり、皆様には大変ご迷惑おかけしてます。)



1年間、何の病気も無く過した子達と久しぶりに顔をあわせる時期でもあります。車に乗るのもめったに無い、ついところは動物病院。…のうえにびっくりしたり、怯えたりしている子で大賑わい。大暴れしてしまう子ってめずらしくないんですよ。自分から喜んで病院に入ってくる子もいるけどね！急激な環境の変化はストレスになります。ストレスを少しでも小さくするように私たちも気をつけています。

飼い主さんも気をつけてあげてください。その1つですが、できればケージに入れてあげてください。待合室で不用意にケージの蓋を開けたりケージから出したりしないように気を付けてください。(ネコちゃんは人間用の洗濯ネットに入れてケージに入れてあげるといいですよ)ケージの中は安心なのです。(ただし、この時のみケージに入れたりするのはかえってワンちゃんのストレスを増やします。こんな時のためにケージには慣らしておきましょう)ケージに入れないうちは必ずリードをつけてください。病院から出たて出たて仕方がないのです。いづドアが開くかわかりません。あと首輪は抜けないように気を付けてくださいね。最悪の場合、逃げってしまうこともあります。



血液検査シリーズ①コレステロールと中性脂肪

春のフィラリア検査と一緒に詳しい血液検査を実施した中で、特に目立っていたのがコレステロールと中性脂肪の上昇です。今回はこのコレステロールと中性脂肪についてお話ししたいと思います。

＜上昇の原因は？＞

糖尿病や甲状腺疾患などの内分泌疾患、肝疾患、腎疾患などで二次性に上昇する場合と脂肪分の摂取過剰によって上昇する場合があります。また、犬種によっては遺伝性に上昇することもあります。

＜症状は？＞

コレステロールおよび中性脂肪の上昇を高脂血症といいます。高脂血症はまったく臨床症状が見られないことが多く検査をしてはじめて発見される場合がほとんどですが、一過性の嘔吐・下痢・腹痛や食欲不振、てんかん発作、眼科疾患など様々な症状が発言する場合があります。さらに、この高脂血症が長期継続した場合、生命にかかわる疾患である急性膵炎を発症する危険性がかなり高くなります。

＜治療は？＞

二次性の場合には原因となっている病気の治療をしなければなりません。二次性の要因が除外された場合には、まず食事改善から始めます。食事は低脂肪・高繊維食に変更し、肥満の場合はダイエットも実施します。食事改善で効果がなければ内服薬を使用することもあります。

皆さんのワンちゃんの結果はどうでしたか？

わからない事・ご質問などありましたらお気軽におたずねください。

狂犬病

日本では1950年に制定された「狂犬病予防法」により、国内の犬の登録及びワクチン接種と輸出入時の検疫が義務付けられ、1957年以降、発生は見られません。狂犬病は、人を含むすべての哺乳類に感染します。感染動物の唾液に含まれたウイルスが咬まれる事等によって傷口から神経と伝って脳へ進入し、興奮、麻痺、けいれん等の症状を起こします。また、水を恐れる症状を起こすことから、世界的には「恐水症」と呼ばれていて、狂犬病などと「犬」の名前が付けられているのは日本だけです。海外では依然として多くの国で人・犬・猫・家畜やアライグマ・きつね・スカンクなど野生動物の感染が報告されています。いつ日本に狂犬病が上陸するかわかりません。

狂犬病は年1回のワクチン接種で予防する事が出来ます。登録及び狂犬病予防注射は、動物病院でも受ける事が出来ますのでご相談ください。また、混合ワクチンの接種とは間隔もあけなければならないので御注意ください。



便利グッズ 「ウンチ取り」

金魚などをすくうアミにビニール袋をかぶせ、洗濯バサミでとめただけ！これで上手に“ウンチ”をキャッチすれば手も汚れない！地面も汚さない！



春～夏の管理

毎日暑さが増し、湿度も高くなるこの時期は、ワンちゃんネコちゃんにとって、とてもきつ～い時期です。まだ、暑さに慣れていない…じめじめする…雨が降って散歩にいけない…さらに追い討ちをかけるように、できれば行きたくない病院へ連れて行かれてフィラリア症検査や狂犬病の注射。気温の変化やストレスから体調を崩すのもわかる気がします。こんな時期の管理はどうしたらいいの？

暑さ対策に必ず日陰を作ってあげよう。また、いつもきれいなお水が飲めるように用意しておきましょう。(お水はこまめに入れ替えよう。毎回食器を洗うことも忘れずに！あるデータによると、食べカスや唾液後混入したお水をそのまま放置しておく24時間後の細菌の数は1gあたり「陶器の食器」で210,000個、「ステンレス食器」で4,000個、「抗菌プラスチック食器」で200個以下、「何年か使用したプラスチック食器」ではナント1億8,000個にまで増殖するようです。「陶器の食器」「何年か使用したプラスチック食器」の細菌数は危険域に達しています。)

皮膚病の早期発見！夏毛になるために抜け毛の多いこの時期はブラッシングできれいに抜いてしまい夏に備えましょう。ついでに皮膚の状態を確認しよう。この時期のブラッシングは一石二鳥だね。

ストレスをためない。ハーブオイルでマッサージなどリラクセス&コミュニケーションでストレス解消！

この時期のネコちゃん  は元気バリバリ！元気づいで彼女(メス猫)の奪い合いや縄張り争いで怪我のたえない時期です。猫同士  の喧嘩傷は傷口が小さいため、すぐにふさがってしまいますが、傷の深い場所で細菌が繁殖し、数日すると皮膚の下が化膿し大きく腫れ上がってしまいます。傷口が小さいから…次の日傷がふさがったから…と安心せずに診察を受けましょう。(ホントはこんな怪我をしないように室内で飼ってほしいなあ)

わんこ・いゃんこ 日記

“襲われたレイジー”

今日はお休み。お休みの日は昼まで寝ている事の多い私なのですが、めずらしく早く目が覚めた。外を見るとポカポカ陽気で桜は満開!!これはかなりのお散歩日和!!さっそく準備をし、いい気分でお散歩に出発。(どこの子も同じでしょうが、うちの子お散歩大好き)家を出て10分くらいかな。少し遠めに黒ラブさん発見。特に気にもせず、道を渡ろうと左右をチェック。右左、右左、右…左…黒ラブさんが…レイに突進!!(うちの子、人見知りはいませんが、犬見知りをするんです)慌ててレイを抱き上げたのですが、なんせ私の身長…ご存知の通りちっこのので、抱き上げてレイにとどいてしまう。咬みついたりする様子はないのですが、休む暇もなくレイに跳びかかってくる。車が通っているので変に動くこともできず、レイも興奮して「ワン！ワン！」吠え始める始末。…でっ私とはいうと…「誰か助けて〜〜！」なんて半泣き状態。そこへ運よく!!救いの手が。市役所の方が通り、なんとかその場を助けてもらいました。一気に気分は急降下。情けない話、それからお散歩コースとしては、その道と縁遠くなってます。

